

「認知症になっても安心して暮らせるまちに」

～最期まで我が家で暮らし続けるためにできること～

いつまでも住み慣れた我が家で暮らし続ける。私たちの地域は、認知症になってもその願いを果たせるでしょうか。

今回は、地域を繋ぎながら認知症の人を見守る活動に取り組まれた、猿渡進平氏をお招きし、ご講演を頂きます。吉川松伏で活動する地域の仲間たちも登壇し、意見交換会を行います。

この機会に、住民全員参加で築く、住み続けたいまちづくりについて考えてみませんか？

1. 日 時 平成28年2月14日(日) 午後13時30分から16時
2. 場 所 吉川市 市民交流センターおあしす 多目的ホール
3. 内 容 講演： 「認知症になっても安心して暮らせるまちに」
～最期まで我が家で暮らし続けるためにできること～
(講師) 医療法人 静光園 白川病院
医療連携室 猿渡進平先生 (現在 厚生労働省出向)



パネルディスカッション：地域で見守り活動を実施している住民による活動報告、意見交換会等

4. 対象者 吉川市民、松伏町民 定員200名 (先着順)
5. 参加費 無料 (事前申込不要)
6. 主催等 主催：吉川松伏医療と介護連携の会
共催：吉川松伏医師会／吉川市／松伏町



講師：猿渡進平氏プロフィール

- 医療法人静光園 白川病院地域医療連携室 室長
- 大牟田市 中央包括支援センター 管理者
- NPO 法人しらかわの会 理事 事務長
- 日本医療ソーシャルワーク学会 理事
- 公益財団法人さわやか福祉財団 インストラクター
- 公益社団法人福岡県社会福祉士会理事
- 公益社団法人福岡県介護支援専門員協議会理事
- 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室に出向



福岡県大牟田市生まれ。

「認知症の人を地域でみるのは難しい」「施設に入所するべき」という声が聞かれる中で、「誰もがいつまでも地域で暮らすためにはどうすればよいか」をテーマに、住民と議論を重ね、『認知症SOSネットワーク』の構築や、それを活用した見守り・声かけ模擬訓練の実施にも尽力。

平成27年度より厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室に出向